

## 平成30年度 学校評価アンケート【教職員】の分析

肯定的評価・・・a「よくあてはまる」とb「ややあてはまる」を合わせたもの  
否定的評価・・・c「あまりあてはまらない」とd「あてはまらない」を合わせたもの

- ◎肯定的評価が多く（今年度80%以上）、昨年度比で肯定的評価が10%以上増えた項目  
番号21「保護者の協力」80.9 ←68.1  
〈昨年度〉番号1「校訓の理解」91.5←80.4      番号10「美化意識を高める」80.9←70.0

- 肯定的評価は多くない（今年度80%未満）が、昨年度比で肯定的評価が10%以上増えた項目  
番号51「校務分掌のバランス」63.0 ←40.4  
〈昨年度〉番号53「教職員間の連携」78.7←64.7

- 肯定的評価が昨年度比で10%以上減った項目  
今年度はなし  
〈昨年度〉番号21「保護者の協力」68.1←86.3      番号43「図書館利用」66.0←76.0  
番号51「校務分掌のバランス」40.4←52.9

- 肯定的評価が少なく（今年度60%未満）、肯定的評価の増加も少ない（10%未満）項目  
番号41「生徒による質問」36.2 ←32.6  
番号56「授業研究に励む環境」48.9 ←51.1  
〈昨年度〉  
番号41「生徒による質問」32.6←34.7      番号51「校務分掌のバランス」40.4←52.9  
番号56「授業研究に励む環境」49.0←40.4

### [まとめ]

- ① 番号21「保護者の協力」に対する肯定的評価が10%以上増えたことは、日ごろの学校と保護者間の連携や信頼関係の構築の成果として評価できる。
- ② 番号51「校務分掌のバランス」についての肯定的な評価が22.6%増加したが、更なる改善が課題となっている。
- ③ 番号7「学校行事の計画的な実行」、番号「LHRの意義ある内容」など、肯定的評価に落ち込みのある項目については課題を洗い出し改善がすることが求められる。
- ④ 生徒の学びへの主体性、探究的な関心・意欲・態度にもの足りなさを感じている教員が多く、継続的な課題となっている。
- ⑤ 授業研究に励むことのできる環境を整えることが、継続的な課題となっている。
- ⑥ 番号14「体罰」a評価が減りb、c評価が増加している。aが100%になるように努めなければならない。